

本文中で紹介した各種データベース

- ・ヨミダス歴史館(読売新聞記事検索データベース)

※明治からの新聞記事を紙面イメージそのまま検索できます。(同時アクセス1・学内LANから利用)
※学期末のレポート作成期間には同時アクセス数を増やしています。詳しくは図書館Twitterなどで告知しますので、ぜひご利用ください！

- ・CiNii Articles(文献検索ツール)

※雑誌に掲載された論文等をキーワードで検索できます。「本文あり」の条件を指定すると、電子版で本文がすぐ読めるものだけを効率的に検索できます。

デジタル・アーカイブの紹介

「東遊雑記」について

附属図書館医学情報グループ 齋藤 香織

「東遊雑記」とは、江戸時代中期の地理学者、古川古松軒(ふるかわ こしょうけん)が、天明8年(1788)幕府巡見使に随従し、東北地方を經由し北海道まで旅した際の紀行文です。各地の人情風俗や地理について記述し、道具類や風景の絵も挿入されています。姉妹編に、山陽と九州を旅した記録の「西遊雑記」があります。

本学においてデジタルアーカイブ化した「東遊雑記」は、附属図書館ではなく人文社会科学部の所蔵資料です。元の所有者、成田彦栄(なりた ひこえい)氏(1898~1959)は、医業の傍ら、郷土資料の保護・収集に尽力され、郷土史(特に考古学関係)に多くの業績を残しました。2009年に成田氏ご遺族より収集資料の大部分を本学に寄贈していただき、その後成田氏旧蔵書の目録作成の作業中に発見されたのが、この資料です。昭和30年に京都の古書店より購入したものと推測されています。

「東遊雑記」には数多くの写本がありますが、この本は部分的な写本と思われます。奥付には、本来は巻之二と六の2巻だったものを、3巻に装丁し直したとあります。保存状態も良好で、着色の美しい図も忠実に写されています。東北地方出身または在住の方は、見知った地名(鶴岡、横手、石巻、松島等)が数多く出てきて、興味深く読めるのではないのでしょうか。東洋文庫版では「弘前」についての記述がありますが、この写本には入っておらず、その数日前までの記述となっているのが少々残念です。

この本は江戸時代の資料であり、保存・取扱いに注意を要するため、デジタルアーカイブ化して公開することとしました。画像データは巻毎にまとめられ、クリックにより本をめくる感覚で読めるようになっています。本文は手書きの文字ですが、「弘前大学 國史研究」に掲載された翻刻が、本学リポジトリにて無料公開されていますので、あわせてご覧ください。



挿絵

参考資料

- ・「解題」 大藤時彦、「東遊雑記」平凡社（東洋文庫）、p. 283-305
- ・「東遊雑記 上」 上條信彦・市毛幹幸、「弘前大学國史研究」129号、p. 21-41
- ・「東遊雑記 中」 白石睦弥著、「弘前大学國史研究」130号、p. 20-40
- ・「東遊雑記 下」 薦谷大輔著、「弘前大学國史研究」131号、p. 39-75

Library News

第3回 Book Hunting の開催について

平成30年6月27日（水）、今年度1回目（通算では3回目）のBook Huntingを、紀伊国屋書店弘前支店のご協力の下、開催しました。この企画は、学生の皆さんが直接書店に出向き、2時間の制限時間と1人あたり3万円程度の予算で、附属図書館に置いてもらいたい図書を選ぶというものです。今回は過去最多の9名の方が参加され、内訳は学部学生6名、大学院生3名でした。所属学部・研究科の内訳は、地域1、人文5、教育1、理工2となっておりました。

過去2回のBook Huntingで選定された図書は、館内に専用のコーナーを設け利用に供していますが、貸出された図書の割合が80%を超えるなど、大変人気があります。学習用の図書だけでなく、最近話題になった本や自己啓発本、実用書などもあり、どことなく親しみやすい感じがあるからでしょうか。

第4回は12月頃を予定しておりますので、多数の参加をお待ちしています。

金額	対象	書店	集合	時間	開催
一人三万円まで購入可	六月二十二日（金）	弘前大学学生・先着十名	紀伊国屋書店弘前店	午後一時より午後三時	六月二十七日（水）

本狩(Book Hunting)とは
学生が図書館においてほしい本を書店に選びに行く企画である。
——阿部信樹担当
09315638050@u.ac.jp

学生が本気に欲しい本を自分の手で選べるということで、大変充実した時間を過ごすことができました。
——第2回参加者

とても楽しかったです!!今後も続けてほしい企画だと思います!!
——第2回参加者

第3回 Book Hunting 参加者募集ポスター

国語研・歴博モバイルミュージアム

人文社会科学部で国立国語研究所及び国立歴史民俗博物館と連携した授業「地域文化振興実習」をするにあたり、附属図書館内のスペースにおいて授業と連動した展示を行いました。この展示に使用されたのが、モバイルミュージアム（簡易移動型展示什器）です。

国立国語研究所の展示は、5月28日～6月15日の約3週間で、「方言の世界」というテーマでした。方言地図にシールを貼っていく参加型のものや、沖縄の首里方言クイズなどの内容でした。

国立歴史民俗博物館の展示は6月25日～7月13日の約3週間で、「文化財レスキューの現場～津波被害の民家から～」というテーマでした。東日本大震災で被災した民家から民俗資料を救出している現場の映像を流し、使っている道具などを展示しました。



国立歴史民俗博物館の展示